

船は港を出なければ —大恐慌と格闘したケインズ—

(株)日本設備工業新聞社
代表取締役社長 高倉克也

国際通貨基金（IMF）は2020年の世界経済見通しで大恐慌以来の最悪の景気悪化を示唆している。新型コロナウイルス感染症のパンデミック（世界的大流行）によってリーマン・ショックを超えるマイナス成長を記録すると警鐘を鳴らしている。

IMFの設立に深くかかわったイギリスのマクロ経済学の創始者ジョン・メイナード・ケインズ（1883-1946）は1930年代の世界的恐慌と果敢に対峙した。市場経済を放任する古典派経済学を批判し、有効需要を人為的に創出する大胆な公共投資を訴えて欧米諸国の経済政策に絶大な影響を及ぼした。既存の常識を覆す容赦ない言動で論敵から集中砲火を浴びながらも経済学の有効性を実証した歴史的功績によって20世紀の最重要人物と見做されている。

経済格差が広がり、会社が倒産し、街に失業者があふれるとき、まるで不死鳥のようにケインズが甦ってくる。

戦後処理で大蔵省に辞表

ケインズは学園都市ケンブリッジで経済学者の父とケンブリッジ市長になる母という知的な家庭で生まれ育った。男子全寮制の名門パブリック・スクールであるイトン校からケンブリッジ大学キングス・カレッジに進学する。数学を専攻し、優秀な成績で学位を取得した。

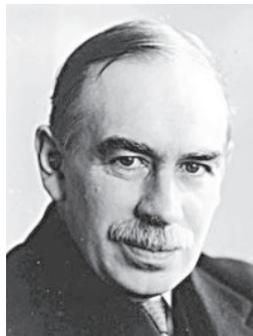
学生時代はロンドンの若き前衛的芸術家集団

ブルームズベリー・グループに加わり、小説家のヴァージニア・ウルフらと親交を深めた。のちに経済学の巨人と呼ばれるケインズは身長198cmと文字どおりの巨体で異彩を放っていた。

大学卒業後、高等文官試験に合格してインド省に勤務したものの2年で退官し、ケンブリッジ大学の研究員や経済誌エコノミック・ジャーナルの編集長を務めた。1914年に第1次世界大戦が勃発し、大蔵省の高官から緊急経済対策の立案を依頼されて入省する。

戦争終結後の1919年、戦後処理に関するパリ講和会議に大蔵省を代表して出席。ドイツなどの敗戦国に巨額の賠償金を支払わせるヴェルサイユ条約の締結に反対し、辞表を提出する。帰国して『平和の経済的帰結』を上梓し、ドイツへの過大な賠償要求は深刻な経済的破綻と国民的反発を招き、新たな世界大戦の火種になると警告した。

ケンブリッジ大学に復職したケインズは1921年に『確率論』、1923年に『貨幣改革論』を出版するなど執筆活動に精を出す。1925年、生活苦でゼネストが広がると『チャーチル氏の経済的帰結』を刊行し、のちに首相となる保守党のチャーチル蔵相は炭鉱労働者を犠牲にしていると糾弾した。



ジョン・メイナード・ケインズ

私生活ではロシア（旧ソ連）の花形バレリーナであるリディア・ロコポワと熱愛の末に結婚する。ロンドン公演で知りあったリディアはマネージャーの夫と離婚し、ケインズと生涯を共にする。

ニューディールを理論化

1926年に『自由放任の終わり』を発刊し、古典派経済学と訣別したケインズは個別の経済活動ではなく経済活動全体を視野に入れたマクロ経済学の礎を築いていく。自由党のロイド・ジョージが主宰する産業研究会に参加し、政府主導の新たな経済政策を構想する。「経済学の主要な課題は政府の『なすべきこと』と『なすべからざること』を改めて区別しなおすことである」と主張し、財政赤字を恐れて公共投資に臆病な大蔵省を非難した。

1929年10月24日、大恐慌の発端となる暗黒の木曜日が訪れる。証券取引所や金融機関が集まるニューヨーク・ウォール街で株価が大暴落し、全世界を震撼させた。預金の引き出しに殺到した人々で銀行が閉鎖され、融資を打ち切られた企業が倒産し、失業した労働者が街をさまよった。

1920年代のアメリカは大量の移民による労働力と豊富な資源で空前の好景気となり、株式への投資ブームが過熱していた。だが商品の過剰生産などでバブル経済は破裂し、倒産と失業という負の連鎖が世界恐慌へと波及していった。

無策のフーバー共和党大統領に代わり、1933年に民主党のフランクリン・ルーズベルトが大統領に就任する。ケインズはルーズベルトへの期待を込めた公開書簡で「束縛のない大統領にはこれまで戦争と破壊という目的にのみ貢献してきた手段を平和と繁栄のために用いる自由がある」として「政府支出に比肩するような手段は存在しない」と赤字財政でも最大級の公共投資を断行すべきと進言した。

ルーズベルトは緊急銀行救済法を手始めにNIRA（全国産業復興法）やAAA（農業調整法）を成立させる。約14年間つづいた禁酒法も廃止し、国民に協力を呼びかけるラジオ放送などを行った。1935年にWPA（公共事業促進局）を設立し、TVA（テネシー川流域開発公社）によるダム建設なども含めて一連の改革をニューディールとして展開

した。ニューディールはトランプのゲームで親のディーラーがカードを配りなおすことを意味する。ケインズはニューディールの動向を注視しながら理論的に体系化していった。

人類を正しく導く技術

1936年、ニューディールの理論的支柱となる『雇用・利子および貨幣の一般理論』を発刊する。企業の業績悪化と労働者の失業は根本的に需要不足に起因しており、政府が公共事業などを通じて有効需要を創出すれば完全雇用を実現でき、個人消費も拡大すると提唱した。

一般理論の第12章第5節では株式市場における投資家の行動パターンを美人コンテストの投票にたとえて解説している。美人コンテストで優勝者を予測する場合「あなたが美人と思う人が重要なのではなく、多くの人々がどんな女性を美しいと思うかが重要であり、あなたの好みとは無関係である」と断言する。株価も同様に投資家は誰もが儲かるとする株を常に買おうとする。すなわち「投資を成功させるには他人がどう予想するかを予想することが大切だ」と。投資家としても有能だったケインズは実際に美人コンテストの原則に従って資産を拡大している。

晩年は第2次世界大戦後のブレトンウッズ会議で主導的な役割を果たし、IMFの創設にも情熱を注いだ。心臓発作による急死後、ケインズ経済学は労働党政権による主要産業の国有化や社会保障制度に具体化され、ヨーロッパにおける福祉国家の理論的基軸として活用されていった。「経済学は教義ではなく手法だ。人類が正しい結論を導き出すための用具であり、技術だ」と語っていた行動的な経済学者は「船は港にいれば安全だが、それでは船の用をなさない」という箴言も残している。

モダン・バレエのプリマドンナとして活躍した妻リディアは作曲家のストラヴィンスキーや画家のピカソからも愛され、結婚後も舞台上に立ちつづけた。子供はおらずケインズ亡きあとはひとりでひっそりと暮らした。

若き日のケインズはリディアに宛てた手紙で彼女の魅力を伝えている。「君に比べたら私が苦労して書いた経済学の記事など何の意味もない」。